

桐 kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌
学校法人 目白学園
目白大学大学院
目白大学
目白大学短期大学部
目白学園中学校・高等学校

第11号
通算109号
2007.11



Special issue-1

**自分みがきと
キャリアアップを実現したい
すべての方に**

目白大学エクステンションセンター

Special issue-2

**豊富な情報提供と指導力で
適切な就職をサポート**

インターンシップ制度

目白探訪 中井御靈神社
学園インフォメーション

輝く目白の星

**音を通して表現し、
伝え合うことを共に楽しむたい**

ボサノバ研究会

第14回桐榮祭（岩槻キャンパス）

目白大学エクステンションセンター

自分みがきと キャリアアップを 実現したいすべての方に



平成12年に開設した「目白大学エクステンションセンター」は、その理念通り、学生から熟年まで学びたいすべての方に魅力ある講座の受講機会を提供してきました。これまでこの講座から生涯学習をスタートさせた方は約15,000名。講座内容の充実に加え、平成14年からは託児室も完備され、キャンバスに集う方々の未来への向上心といきいきとした暮らしの実現を支援しています。

目白大学のエクステンション講座は、「語学」「パソコン」「キャリアアップ」「趣味・教養」の4つのカテゴリーから構成されています。欧米・アジアの主だった言語の習得を目指す語学講座は、レベルにおいても目的においても様々なコースがそろっています。(平成19年秋現在:42講座59コース)、講師の質の高さにも定評があります。

また、パソコン部門はソフトの中で応用範囲が広く、特にニーズが高いワード、エクセル、パワーポイントを中心に、体験レベルから年賀状の作成といった実用的なコースまで、特に基礎を学びたい方に最適な10講座11コースがラインナップされています。

カリキュラムのクリアで 資格取得のヘルパー養成講座

「語学」「パソコン」と並んで人気が高いのが、キャリアアップにつながる実用講座。国家資格である「宅建主任者」「マンション管理士」「管理業務主任者」試験の準備講座をはじめとして、秘書技能検定、色彩検定、年金アドバイザーなど就職に有利な資格の習得を目指す16コースが受講可能となっています。この秋からは幅広い職種から注目される「福祉用具専門相談員養成」講座や「販売士3級

受験対策講座も新たに加わり、一層の充実が図られています。

こうした講座の中で最近特に受講生を集めているのが、「ホームヘルパー2級養成」講座です。担当講師で、訪問介護サービス事務所に所属し現役のヘルパーでもある名越嘉代子先生のお話では、10~70代まで実に幅広い年齢層、様々な経歴の方が受講されているとのこと。人と接する仕事をしたい、両親のために、障害者のために役に立ちたいなど、受講の動機は異なっていても、資格の取得という同じ目標に向かって、励まし合いながらの楽しい授業が続いているそうです。

技術面、精神面での指導に加えて先生が特に力を入れているのは、介護者自身の心身の健康維持。職業病ともいえる

腰痛を起こさないためのボディメカニクスのようなテクニックと、高齢者の長い生活歴を尊重できる成熟した精神面が備わって初めて良い介護ができることが受講者によく伝わる講座を目指しているとおっしゃいます。基本知識を自分で学ぶホームスタディ、実技の直接指導を受けるスクーリング、そして介護現場での30時間の実習をクリアすれば無試験で資格が取得でき、その後は協力機関が就職活動をバックアップしてくれるというのも、この講座の大きな魅力です。

自分を癒し・みがく “色のチカラ”を学ぶ

「趣味・教養」の分野には絵画、音楽、文学、書道など32コースが用意されています。ここではその中から特色ある講座として、「センスアップカラーコーディネート」と「カラーセラピー」をご紹介しましょう。前者では、色の基本理論をはじめとして、自分に似合う色(パーソナルカラー)の分析、それを応用しながらのメイクアップ・アセサリー・髪型などのアドバイス、そして配色や布の素材感に関する知識の習得を通してトータルに自分の個性を活かす外見みがきに重点を置きます。さらに上級のコースでは、インテリアや身の回りの空間づ

くり、街並みにおける色彩の用い方など、「住」や環境における色彩の役割や効果が学べます。

一方、後者のセラピーの講座では、色がもつ正と負の両面の本質を知り、その色を選んだ自分の心に置き換えるという一連のプロセスを講師のアドバイスのもとに実践していきます。この2講座を担当する千葉典子先生によれば「色は単なる表層ではない」とのこと。「外見を整えると気持ちが良い、行動が良い、自分自身を見直すことができます。心にゆとりが生まれ、自分に自信が持てるようになる。そうすると自分がいとおしくなり、他人をも同じようなやさしい目で見られるようになります。」

「色を用いて自分を探し・見つめ・磨いて、

心の健康を保ちながら次のステップにつなげていただくための講座」という千葉先生の趣旨が共感を集め、受講者には人間関係のより良好な構築を目指す方や心に悩みを持つ方が多いそうです。「この講座で自分探しができる進むべき方向性が明確になり、ビジネスの場面でも活躍できるようになったとおっしゃるOLさん、セラピーに後押しされて心が軽く、元気になりましたと言つてくださる熟年女性の声を聞くと、私もうれしくなります。」実際、毎回の講座終了後も千葉先生の周りには生徒さんの輪が広がっています。

身体的に健康で時間に余裕のある中高年が増加傾向にある昨今、生涯学習の社会的ニーズは今後ますます高まってくると考えられます。目白大学エクステン

ションセンターは、学びたいと願う多くの方の意欲と生涯教育の社会的意義を尊重しつつ、より質の高い講座の提供を目指したいと考えています。

講師紹介

センスアップカラーコーディネート・カラーセラピー講座担当
千葉 典子先生
ちば

イメージラー・コンサルタント、カラーセラピスト、プライムカラー主宰。各種カラーセミナー担当講師として活躍する傍ら、大手企業の研修や社員教育も手がける。「生活と色彩」をテーマに色彩による快適な暮らしや生活の潤い、感性の広がりなどライフスタイルのセンスアップを提唱している。最近は著名人のイメージアップコンサルティングや色彩理論の介護分野への適用にチャレンジしている。

Student's Voice



ホームヘルパー2級養成講座 受講
相田 春菜(あいだ はるな)さん
目白大学人間学部人間福祉学科2年

大学在学中に一つでも多くの資格を取っておきたいという気持から、受講を決意しました。資格を持っていれば就職活動でも有利になるとおもいます。この講座を選んだのは、やはり自分の大学で通い慣れているという理由からです。

受講生にはいろいろな年齢層や経験の方々がいて、大学の講義とは違った刺激やおもしろさを感じられます。先生方とも親しくお話しをさせていただいてとても楽しく学べました。ペイントメイキングなど必要不可欠な技術より高い水準で学べましたし、福祉の知識もどんど増えた気がします。また受講を通して、自分の中の福祉に対する思いがどんどん深まり、学校での講義から得るものが多くなったように思います。将来は学んだことを最大限に活かして福祉職に就き、利用者の方々を様々な面で支えていきたいと考えています。

Student's Voice



センスアップカラーコーディネート講座 受講
高橋 陽子(たかはし ようこ)さん
主婦

千葉先生の講座を受講していた姉が目に見えて変わり、生き生きとして姿を見て、自分もやってみたいと思ったのがきっかけです。子育てに疲れた自分、家族に対して不機嫌になってしまふ自分をなんとかしたいという気持ちもありました。

講座では自分に似合う色の分析をはじめ、流行を取り入れた形でファッション、メイク、髪型から装飾品に至るまで、トータルな形で自分を素敵に見せるためのアドバイスがいただけます。全面的な心理分析とともに色を用いて元気を出すカラーセラピーや食事マナー・や礼儀作法の指導まで、取り上げる内容の幅広さが大きな魅力です。自分らしい、年齢相応の美しさを發揮するための細かい指導をいただき、毎回新しい発見があるのが楽しく、もう2年以上も通っています。月1、2回のこの授業が私の元気の素で、家族も応援してくれています。

インターンシップ制度 豊富な情報提供と指導力で 適切な就職をサポート

文部科学省の定義によれば、「インターンシップ」とは「在学中に学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」。もともとは100年ほど前にアメリカのシンシナティ大学で始まった制度で、今ではアメリカの新卒者の7割以上が体験し、採用選考の際の大きな要件になっています。

日本でも1990年代後半から推進の声が高まり、今では多くの大学で行われているインターンシップ支援について、早くからキャリアデザイン教育を重視してきた目白大学の最新事情をご紹介します。

進路指導課を通じて

適切な企業選択システムを利用

現在、本学の学生がインターンシップ実習へ行くには、主に3通りの方法があります。
①自分で企業を探して応募する場合、②本学の進路指導課を通じて企業を探す場合、③ゼミの指導教員から紹介を受ける場合です。

①は自分1人で全てを手配するため自由に活動できますが、相当な労力を必要とし、トラブルが起きたときも自己責任で解決しなければならないなどの問題点もあります。
③は、どこのゼミに所属するかによって事情は大きく異なります。本学の学生が等しく支援を受けられるのが、②の方法です。

インターンシップを希望する学生の多くは、3年生の春学期に進路指導課で応募先を探し、夏休みに実習を体験します。本学の学生全員が受講する「キャリアデザイン」で、インターンシップを詳細に取り上げる授業が行われるので、それがきっかけとなっているようです。

進路指導課が紹介するインターンシップ実習には2種類あります。1つは、各企業から本学に直接寄せられる募集案件。もう1つは、「ハイパーキャンパスシステム」を通じて紹介する案件です。

「ハイパーキャンパスシステム」とは、各都道府県の経営者協会が実施団体となり、インターンシップ推進支援センターが運

営する、国内最大のインターンシップ支援システムです。平成18年度は目白大学を含め700校、学生12,000人、企業1,900社が参加しています。

このシステムを利用する場合、学生は必ず学校を通して企業に応募するので、学校から適切な指導を受けた上で実習に臨むことができます。企業にとっても、学校の推薦による適切な学生の受入れが可能となります。さらに、学校側も学生の動向を正しく把握し、不適切な企業への応募を止められるなど、学生・企業・学校



流通センターで商品の流れを実感

の3者それぞれにとってメリットがあるシステムとなっており、本学でも積極的に利用しています。

学生一人ひとりの適性を見極めて実習先を決定

学生が実習先を選択する際、進路指導課では相談に訪れた学生自身の希望や本人の適性を見極めながら、適切と思われる案件を紹介します。学生の希望は多岐にわたりますが、職種としては事務



職や営業職など、アルバイトでは経験できない業務を選択するよう指導しています。

また、実習期間は2週間前後となるのが一般的で、「1日だけ」というような短期の案件はなるべく避けさせています。短すぎては学生にとって実のある就業体験にならないので、インターンシップの実習先



取引先のコクヨでもショールームを見学しました



実習生同士でのグループワーク

としてあまり好ましくないという理由です。進路指導課では、数多くの案件についてこうしたことを的確に分析・判断し、学生一人ひとりの適性と合致する実習先の情報を提供しています。

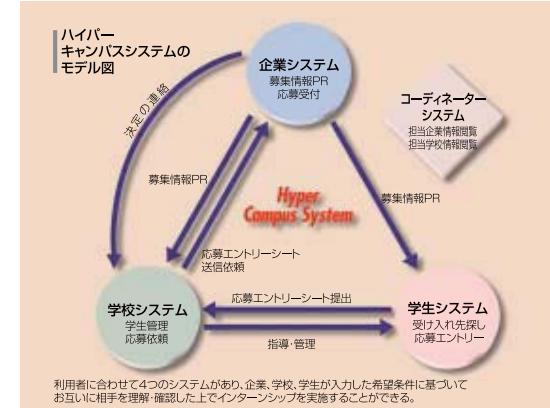
応募に際しては、進路指導課で履歴書やエントリーシートの書き方、応募面接

の受け方、さらには社会人としての基本的なマナーまで丁寧に指導します。就職活動前の学生にとっては、この段階がすでに初めての経験ばかりですが、手間と時間をかけた指導はその後の就職活動時にも大いに活かされます。

また、受入れ企業との細かな連絡などは進路指導課が円滑に進めるので、学生本人の負担が大幅に軽減されるのもメリットの一つと言えます。



車での営業に同行しました



企業活動の実態を体験することで

より適切な就職への足がかりに

もなのです。

企業活動の実態を知り、併せて企業情報を自ら分析する力を身に付けることは、卒業後の適切な就職への大きな足がかりとなります。本学の進路指導課は、より充実したインターンシップを実現するための豊富な情報と指導力によるバックアップ体制を整えていますので、1人でも多くの学生に、上手に利用してほしいと考えています。

学生の声



依田 望さん

人間学部心理カウンセリング学科3年

当初は独力でインターンシップ実習先を探していたのですがうまくいかず、進路指導課に相談して日興商會を推薦してもらいました。履歴書などを提出書類の書き方を一から教えてもらいましたし、学校の推薦企業なので安心できました。

実習は営業中心、実際の商談を、隣に座って目の前で見せてもらえたので、最初はすごくびっくりしましたね。貴重な経験だったと思います。順調なことばかりでなく、トラブルが発生した取引先での緊迫したやり取りにも遭遇しました。でも、その相手から同時に注文も受けているのは、日頃からの「Face to Face」による信頼関係のたまものではないか、というのが私の抱いた印象です。現実の企業活動では、そうした関係を築くためのコミュニケーション能力が大切なんだということを、実習全体を通じて強く感じました。

仕事をだけでなく、他大学からの実習生とも情報交換するなど、実習期間は毎日がとても充実していました。2週間があっという間に過ぎてしまいました。この経験や新たな人の繋がりは、これから就職活動に臨む自分にとって大きな自信になると思います。

受入れ企業の声



恩田 誠さん

株式会社日興商會 総務人事課長

当社は平成14年から毎年、インターンシップの学生を受け入れています。今年は目白大学の依田さんを含め、4大学から6人の学生に来ていただきました。

学生の選抜は、「積極的で素直な方」と各大学に依頼しています。また、実習生には「お客様の訪問際に爽やかな挨拶を徹底すること」をお願いしています。爽やかな挨拶は相手の心を開き、しかも特別なスキルや経験が必要なく、「気持ち」一つですぐにできるからです。

実働10日間の研修では、社内研修だけでなく実際に営業同行をして、多くの企業訪問や業種業界に触れられるスケジュールを組んでいます。得意先の方や移動中の自動車内で当社の社員から、就職活動や営業の内容など幅広くアドバイスをもらえることも、学生には有益なようです。

目白大学からは今年初めて学生を受け入れさせていただきましたが、進路指導課の方にも参加した依田さんにも、大変熱心に取り組んでくださいました。来年度以降も目白大学からの参加を大歓迎しますので、前向きで、多くを学びたいと考える学生の皆さんにぜひご参加いただきたいと思います。



10回目を迎えた「目白探訪」。

今回は節目の特別企画として

キャンバスを飛び出し、

桐和祭に毎年お神輿を出していただくななど、

学園にゆかりの深い

中井御靈神社を訪ねてみました。

昭和初期から80年近くにわたって

目白学園の発展を眺め続けてきた

96歳の現役神主さんに、

境内を案内していただきます。



●本殿

およそ300年前の享保3年(1718)建立。今年7月末、磯部さんを畜主とする新5号館建設の地鎮祭もここで執り行われました(右ページ「学園トピックス」参照)。安産・子育ての神として知られ、ここで結婚式を挙げた目白学園の卒業生もいるそうです。



磯部 芳直さん
中井御靈神社宮司

大正2年愛知県生まれ。96歳。昭和6年、18歳で中井御靈神社に奉職し、現在に至る。終戦後に行われた目白商業出身戦没者の慰霊祭や校舎建設の地鎮祭など、新宿キャンバスに関係する神事の大半を執り行ってきた。

●前庭

本殿前に庭ができたのは昭和29年のこと。それまでは本殿がもう手前にありました。「本殿を後ろへ下げる工事

中に、私が土器の破片を拾つたんです。それがきっかけで近くにある目白学園も調査したところ、遺跡が出てきました」。目白学園遺跡発掘の契機となつた場所でもあるのです。

●社務所

第2次世界大戦末期に焼夷弾が真庭へ落ちたものの、運良く焼失を免れました。本学創立者の佐藤重遠、フユ両先生は、キャンバスからしばしば散歩にやって来て、ここで磯部さんと話をしていたとか。「重遠先生は天孫降臨の地である宮崎の出身なので、神社のこと詳しがったですね」。



第10回 中井御靈神社

●神楽殿

神楽殿とはその名の通り、神に奉納する舞や音楽を披露するところ。普段は境内の南側にひっそりと佈んでいます。戦時中、この下から掘った防空壕は目白商業の敷地内まで繋がっていたといいます。



Shinjuku Campus Map



学園インフォメーション

中学校・高校

2007.7.21~24 林間学校

中学校1年は志賀高原で、高校1年は菅平高原で、それぞれ林間学校を実施した。中学生は英語の講習やアクティビティを伴うサマーキャンプも兼ねており、普段と異なる環境の中での集中訓練により大きな上達が見られた。高校生はボーリング大会や森林での体験学習(自然の木を使って椅子作りやテント張り、バムバーン作りなど)を行った。

2007.7.29 目白学園遺跡フェスタ

今年で8回目となる目白学園遺跡フェスタが開催された。NPO法人「歴史・環境・まちづくり」の協力による遺跡解説コーナーや縄文の食卓コーナー、岡村道雄氏による講演、本校生徒が手伝いながら一緒につくる勾玉や縄文クッキーの実演教室など、地域の方々を中心とした盛況の一日となった。

2007.9.2 チアリーディング部が全国大会で活躍

国立代々木競技場第1体育館において、



JAPAN CUP2007 チアリーディング日本選手権大会が開催された。関東大会を勝ち抜いて出場した中学・高校ともに健闘し、中学は見事全国制覇の偉業を達成、高校も4位入賞の快挙を成し遂げた。

2007.9.16~17 桐陽祭

毎年恒例の文化祭「桐陽祭」が開催された。両日とも好天に恵まれ、新校舎の建設中でやや手狭なキャンバスは、大勢の来場者で賑わいました。

大学・短大・大学院

2007.7.9

「大学生英語論文コンテスト」に本学の交換留学生が入賞

本学の姉妹大学であるアメリカ・サンフランシスコ州立大学からの交換留学生・Kenny Lou君が、「第2回大学生英語論文コンテスト (International Herald Tribune / Asahi Shimbun English Essay Contest)」において優秀賞を獲得。朝日新聞東京本社での表彰式に臨んだ。このコンテストは、論理的に構築された英語論文で自分の意見を世界に発表するというスタイルで競われる。今回は海外を含め670名の応募者があり、最優秀賞1名、優秀賞5名、奨励賞1名が選ばれた。



2007.8.11~12/9.8
オープンキャンパス

新宿キャンバスでは8月11日(土)、岩槻キャンバスでは11月12日(日)の2日間にわたり、今年度3回目のオープンキャンパスを実施した。新宿キャンバスでは最高気温が36.4℃を記録。とりわけ、首都圏以外から上京してきた受験生やその家族の姿が多く見られた。2日連続開催となった岩槻キャンバスでも、大盛況のうちに今年度のオープンキャンバスを全日程終了した。

2007.10.27~28 桐和祭

新宿キャンバス恒例の学園祭、「桐和祭」が実施された。39回目となった今年のテーマは「We ♥ 桐和～39回分のありがとう」。初日は季節外れの台風に見舞われたが、2日目は一転して爽やかな秋晴れのキャンバスに。併せて1万5千人の来場者が、恒例の秋の祭典を楽しんだ。

2007.11.3~4 桐榮祭

岩槻キャンバスの学園祭、第14回「桐榮祭」が開かれた。今年は「目白乱舞～小さい中に美味しいある～」をテーマに、昨年にも増して医療系の参加企画が充実。運営の主体が、開学以来キャンバスを支えてきた人文学部の学生から初めて保健医療・看護両学部の学生へと移った歴史的な学園祭ともなった。

特別支援教育に関する協定を新宿区と締結

7月18日(水)、新宿キャンバスにおいて、新宿区教育委員会と本学との特別支援教育(障害のある児童・生徒の自立や社会参画に向けて行う教育や指導)に関する協定の調印式が行われました。この協定は、大学・短大・大学院の研究者及び学生と新宿区立の小・中・養護学校及び幼稚園教員との交流等を通して、新宿区における特別支援教育の質の向上を図ることで締結されることとなったものです。

調印式には、新宿区教育委員会から金子良江教育長はじめ多数の関係者がご来席。金子教育長と本学の佐藤弘毅学長との間で協定書が取り交わされました。本協定に基づき、教員対象研修会等への講師派遣や区立幼稚園等への学生ボランティア派遣など、地域の教育現場へのより一層の貢献に努めさせていただきます。



新5号館建設が本格スタート!

中大・高校の校舎として長く親しまれた5号館の改築が、いいよ本格的にスタートしました。すでに旧校舎(「桐」第9号「目白探訪」参照)は取り壊され、新宿キャンバスの北側では大規模な工事が進む予定です。

改築工事の成功と安全を祈念して、7月25日(水)にはキャンバス近くの中井御靈神社(左ページをご覧ください)において地鎮祭が執り行われました。中大・高校の新しい学び舎となる新5号館は地上5階建て、総合的なメディアセンターの役割を担う図書室や大小2つのアーニア、カフェテリア等の諸施設を組み入れた機能的な校舎で、完成は平成21年2月の予定です。

昼夜休みの新宿キャンパス、楽器同士の語り合いが始まります。足を止めて演奏を眺める学生、和音の響きを楽しみながら歩き続ける教職員など反応は様々ですが、心地よさが大学全体に広がります。多忙を極める佐藤学長でさえ、時々学長室の窓を開けて耳を傾けることも…。演奏するのは創設6年目を迎えたジャズ系音楽サークル、「ボサノバ研究会(ボサ研)」。「名前に反してボサノバの演奏はほとんどしません。ただ、ジャズ研にしてしまうと本当にジャズしかやらない集団になってしまうと思ったのです。ジャズだけでなく、多様な音楽を自由に演奏できる場であり、しかもボサノバの持つ温かく柔らかなイメージの部を目指したかった」と創部のきっかけをつくり、大学院に進んだ今も現役の部員である菅谷さんは語ります。

セッションへのとまどい

軽音楽の分野には、「セッション」という言葉があります。「演奏者が集まること」という意味ですが、ジャズの世界では「演奏者が集まって即興音楽を行うこと」を指します。ボサ研のセッションでも、ジャズなどをメインにアドリブを重視した演奏を行っています。しかし、初めてボサ研へ見学に来た学生は、この“譜面に書かれていない、音を自由に鳴らす音楽”がな

かなか理解できず、とまどうことが多いようです。現在の部長である井上さんは、入部当初の印象をこう振り返ります。「高校までやっていた吹奏楽では、音の強弱まで譜面や指揮者に委ねられていました。だから、“演奏者が譜面に書かれていないことを自由に表現する”ということが、最初は全く理解できませんでした」。このように、一度は入部したもの、求める音楽性の相違からセッションについていけずに退部してしまう人も、以前は少なくなかったそうです。

楽しさを分かち合うための工夫

そこでボサ研では、初めて見学に来た学生用、2回、3回と重ねて見学に来た学生用に、段階に応じて活動内容を紹介する印刷物を用意するなど、見学者自身によく考えてから入部を決断してもらうための工夫を重ねました。サークルとしてやりたいことをきちんと理解し賛同してもらつてから入部することが、ボサ研にとっても入部希望者にとっても望ましいと考えたのです。

今年入部した金子さんも、「自分がやりたい音楽について相談したら、他の部を勧められました(笑)」と証言します。しかし、そのとき金子さんは本当にこのサークルに入りたいのかを問い合わせるような対応を見て、限られた学生生活の中でお互い精一杯やりたいことを楽しもうとする先輩たちの真摯な姿勢を感じたそうです。

見学者への対応だけでなく、部員同士が話し合いや反省を行う機会を増やし、相互に学び合う環境づくりにも努めてきました。上・下級生の隔てのない対話によって情報交換や意思の共有

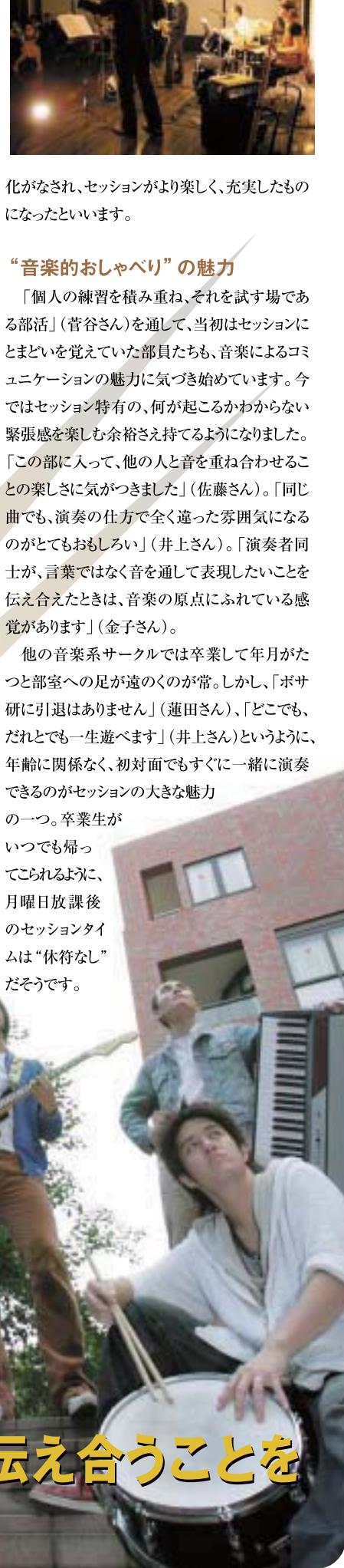


化がなされ、セッションがより楽しく、充実したものになったといいます。

“音楽的おしゃべり”的魅力

「個人の練習を積み重ね、それを試す場である部活」(菅谷さん)を通して、当初はセッションにとまどいを覚えていた部員たちも、音楽によるコミュニケーションの魅力に気づき始めています。今ではセッション特有の、何が起こるかわからない緊張感を楽しむ余裕さえ持てるようになりました。「この部に入って、他の人と音を重ね合わせることの楽しさに気がつきました」(佐藤さん)。「同じ曲でも、演奏の仕方で全く違った雰囲気になるのがとてもおもしろい」(井上さん)。「演奏者同士が、言葉ではなく音を通して表現したいことを伝え合えたときは、音楽の原点にふれている感覺があります」(金子さん)。

他の音楽系サークルでは卒業して年月がたつと部室への足が遠のくのが常。しかし、「ボサ研に引退はありません」(蓮田さん)、「どこでも、だれとでも一生遊べます」(井上さん)というように、年齢に関係なく、初対面でもすぐに一緒に演奏できるのがセッションの大きな魅力の一つ。卒業生がいつでも帰ってこられるように、月曜日放課後のセッションタイムは“休符なし”だそうです。



ボサノバ研究会

◆取材協力

心理学研究科 修士課程2年

菅谷 正史さん

人間学部 心理カウンセリング学科4年

蓮田 一仁さん

経営学部 経営学科3年

井上 和人さん

人間学部 心理カウンセリング学科3年

外山 友子さん

人間学部 心理カウンセリング学科2年

三浦 悠子さん

人間学部 心理カウンセリング学科2年

佐藤 史人さん

社会学部 メディア表現学科1年

金子 隆一郎さん

輝く目白の星

音を通して表現し、伝え合うことを
共に楽しみたい